

東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会（第24回部会）議事概要

日 時：令和元年9月12日（木）午後7時00分～午後9時00分

場 所：東淀川区役所出張所 3階多目的室

【議事】

1 開会

2 議題

(1) 摂津まるごとマーケット視察報告について

・ VTR 及び部会員報告

(2) 講演 摂津市での市民活動について～友達ゼロから摂津最大級イベントができるまで～

3 閉会

《配付資料》

- ・ 議事次第、座席表
- ・ 講演資料

1. 開会**2. 議題****(1) 摂津まるごとマーケット視察報告について****(部会員)**

- ・ 子どもや保護者を対象にしたワークショップがたくさん開催されていて、すごくにぎわっていた。非常に参考になる取り組みだと思う。

(事務局)

- ・ VTR を基に会場の様子やステージプログラム、ワークショップ等について説明

(2) 講演 摂津市での市民活動について～友達ゼロから摂津最大級イベントができるまで～**(摂津まるごとプロジェクト 理事長)**

- ・ 配布資料を基に摂津まるごとマーケットの経緯等について説明

(フリートーク)**(部会員)**

- ・ 地域の方との壁が問題とあったが、今はどうですか。

(摂津まるごとプロジェクト 理事長)

- ・ 子ども会、PTA 本部等、地域でも活動をしていた。そうすると距離感が近くなり、まるごとマーケットで知り合ったり、別のところで知り合い、最終的につながった人もいたり、最初は壁を感じていたが、今は感じなくなった。

(部会員)

- ・ 地域の高齢の方とも交流はあるのか。

(摂津まるごとプロジェクト 理事長)

- ・ まるごとマーケットでは地域のステージもあり、高齢の方とも交流はある。ご高齢の方たちが活動されている団体、80代の方が代表をしているところもある。

(久教授)

- ・摂津まるごとプロジェクトでは高齢の方も理事で入っており、メンバーの年齢的なバランスが取れていると思う。何でも理事長が動かしているではなく、各コミュニティにベースを持った人たちが、自分たちでプロジェクトを動かしている。NPO がそれを緩やかにまとめている。

(部会員)

- ・参加する企業やブースも年々増えているのか。

(摂津まるごとプロジェクト 理事長)

- ・年々増えている。企業から問い合わせも多いが、6 ブースだけと決まっているので何社も断っている。
- ・企業ブースも人気が高く、地域の人との接点を得ることができるので、企業にも喜んでもらっている。企業だけではなく、参加して貰った地元の飲食店にも喜んで貰い、地域活性に繋がっていると思う。

(部会員)

- ・イベント事業、コミュニティの拠点、情報発信、この3つはある程度できているのだが、地域での人材育成が全然できていない。

(久教授)

- ・私は人材育成をしているのではないと思っている。まるごと大学では、既にスキルを持った人がスキルアップを図りたいと思って集まってきていて、教えなくてもやれる人たちがばかりが来ている。そこからネットワークができた。次に渡せる人たちが育ったのではなく、その力を持った人たちが集まってくる場所を作ったのだと私は思う。

(部会員)

- ・育休中で働けないが、何かスキルを持っている方を探すといったターゲットの絞り方なのか。
- ・私と同じ年代をターゲットにしているので、SNS、Excel、Word もできない方が多い。

(摂津まるごとプロジェクト 理事長)

- ・育休中だが動きたい人は、いっぱい埋もれている。
- ・実行委員が今年は9名いたが、全員子育て中のママで、起業しているママ、会社に勤めているママ、でもスマホさえあれば仕事ができる。SNS をやっている人も多いしパソコンがさわれなくても、スマホでできる。運営の核に持ってくるのはママたちをおすすめする。
- ・子育てしながらだと、子どもがキーボードを触り、パソコンが使えない。まずは LINE をいかに駆使するか、あとデータの共有は LINE や Google ドライブ使う、組織で1つの Gmail アカウントを取得して全てやり取りしたら、全員がメールを見ることができる。出店者の管理も LINE 公式アカウントを使っている。出店の申し込みは、無料のフォームメーカーを使っている。色々なアプリがあり無料で色々なことができる。

(久教授)

- ・育休中の人が顔を出せる機会を作ると人がたくさん来る。別の地域の井戸端会議で、発言を聞いてプロだと分かる人がいた。仕事を訊ねると不動産会社の開発部の方だった。3年間育休で行くところもないからと来ていた。他には育休中の養護教諭で、情報交換する中で地域活動に目覚めた人もいた。

- ・育休中の人たちが、地域デビューするような機会を作ってあげると、復帰しても家でやれることをやってくれることもある。
- ・育休中のママたちは、仕事に復帰するのか、何か新しいことをするべきなのか、復帰はするが時短で何か社会貢献をするのか、立ち止まって考えているタイミングだと思っている。繋がりができる人たちは復帰しても関わってくれたりして繋がっている。

(部会員)

- ・大阪市内だと、淡路、東淀川区も何もないと言うか、摂津市と似ているものを感じる。転入してくる若い世代はまるごとマーケットでは、ターゲットや出店者にもならないのか。

(摂津まるごとプロジェクト 理事長)

- ・あまりならない。だが大学生でボランティアをしていた子が、就職しママになり子どもを連れて遊びに来たり、ボランティア活動の経験が役に立ったと言いに来てくれる。

(部会員)

- ・3階のミニ電車のコーナーをしていたのは高校生か。

(摂津まるごとプロジェクト 理事長)

- ・小学校のイベントで市内の高校にミニ電車があることを知った。顧問の先生を紹介して頂き、イベントをやりたいと交渉したら快諾してくれた。ミニ電車だけではなく、ジオラマの制作もしている。それを毎年楽しみに子どもたちも見に来るし、高校生も子どもたちにすごいと言われて喜んでいる。
- ・日頃発表の場を求めているけれども、発表できていない人や学生は地域にたくさんいると思う。

(久教授)

- ・他のイベントで地元の高校の科学クラブに声かけると、喜んで出て貰えた。彼らは文化祭でしか発表の機会がないからである。文化部は、色々チャンスがあるのではないかなと思う。

(部会員)

- ・東淀川区の課題と類似するところもたくさんある。出生率は、摂津市が府内で1番、東淀川区は大阪市内で1番である。しかし東淀川区は14歳未満の転出率も大阪市内で1番である。また東淀川区は大阪市内のトップクラスで育休の取得率が低い。大阪市内は保育所ごとに子育て支援センターが設置されているが、どれぐらい孤独感、行政の支援の物足りなさがあるのか分からない。学校に入ると、すぐにPTAについてアンケートが回ってきて、少しでも余裕があると引っ張りだこになる。
- ・私はコミュニティビジネスの仕組みが大事だと思っている。どうすればいいのか考えている。

(久教授)

- ・地域の人を大きく二つのタイプに分けると、サービスをどんどん受けたい人たちと、自分たちで街をよくしていこうという人に分けられる。子育て支援もだが、サービスで何とかしてほしい、しかも安いサービスが良いという人が増えれば増えるほど、役所も地域の人にも負担が増える。そうではなく一緒に頑張って街を良くしたい人たちが、繋がった方が良いストーリーである。
- ・摂津まるごとプロジェクトのやり方は、みんなでやろうという人をいかに繋げられるかの話である。実行委員の全員が、何でもできるようにしていくのは一つの戦略である。お客さんを作らずみんなに担い手に

もなってもらう。そうすると、みんなが役割分担できるから楽になる。逆にお客さんを作れば、お世話役の負担が大きくなるだけの話である。

- ・サービスを重視するほど、お客さんが増えていくので、どこで線引きするかが一つのポイントだと思う。

(部会員)

- ・マミー・クリスタルのようにママだけでやると、PTA と対立はしないのか。この場で議論になる、町会とか地活でこのような仕組ができたらと思う。

(久教授)

- ・PTA と対立するのではなく、PTA がマミー・クリスタルのような雰囲気になればいいと思う。

(部会員)

- ・久先生や理事長が言っていたように育休中のお母さんは、色々な知識を持っている、それを伸ばしてあげたり、引き込めたりできるようにしたい。

(久教授)

- ・実際にその人たちの中にコミュニティビジネスを起こす力を持っている人がいる。これまでの生き方から、地域でビジネスをする生き方によって変わって貰えたらいいと思う。

(摂津まるごとプロジェクト 理事長)

- ・例えば PTA は年間のスケジュールが決まっていて、役職毎にもすることが決まっている。毎年やっていることだからと言われてしまうと、やりたくないと思ってしまう。
- ・まるごとマーケットやマミー・クリスタルでは、ゼロの状態から何がしたいのか、それを行うには何が必要なのか、何をすればいいのかと話を展開する。そうすると、各々ができることを言い合って役割分担をしていく。こちらから指示するのは難しいが場所や機会を提供すると、イベントが出来上がっている。

(久教授)

- ・ワークショップもハンドメイドも、コミュニティビジネスの実験の場所であり、PR の場所である。自分で作ったもの、自分の技術をお金に変える実験をしているのがハンドメイドのブース、自分のノウハウを講座形式でお金に変える実験をしているのがワークショップのブースである。そして、ここからコミュニティビジネスをやりたい、あるいはできる人たちが集まる機会にもしている。このようにブースを吟味しているところがポイントになっている。

(摂津まるごとプロジェクト 新田理事長)

- ・まるごとマーケットに出るまでに、何度もまるごとマーケットとはこういうイベントだと説明をする。他のイベントと一緒にではなく、出店者の皆さんも一緒にこの場を盛り上げてくださと話をする。まるごとマーケットは利益を得るだけではなく、お客さんの心をつかみ、それを必ず普段のお仕事や、自宅のサロンなら自宅のサロン、お店ならお店なりに、きっかけを作る、PR の場所だと説明し出店して貰う。

(久教授)

- ・摂津市の市民公益活動補助金制度の話で、マミー・クリスタルの新代表の提案した事業が面白かった。地域の集会所にママたちを送り込んで、活動をしてもらいましょうという話である。隣で役員会議とかがあれば、ママたちが動いていると気づいて貰えるし、逆にママたちに地域に集会所があることを知ってもら

える。マミー・クリスタルの活動と地域活動をつなごうという事業である。

(部会員)

- ・まるごとマーケットを見学していると 5000 円ぐらい使っていた。地域のお祭りだと 5000 円も使えない。良く出来ているなと思った。

(久教授)

- ・地域はそれで悪循環を起こしている。無料が当たり前だと思っている人が多い。お金を取ると来なくなるのが嫌なので、無料や安価を続けてしまう、そうすると首が絞まる。当然、福祉的な観点も必要であり、お金を払わないで済むところはそれでいい。しかしその分どこかで稼ぐ必要がある。稼ぐ部分と福祉的な部分をどのように役割分担し組み合わせていくかが必要である。

3. 閉会

(事務局)

- ・次回部会は 11 月 14 日木曜日 19 時より東淀川区出張所 1 階会議室にて開催

東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会（第 25 回部会）議事概要

日 時：令和元年 11 月 14 日（木）午後 7 時 00 分～9 時 00 分

場 所：東淀川区役所出張所 3 階多目的室

【議事】

1 開会

2 情報提供

(1) 第 2 回新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域検討協議会会議報告

(2) 阪急電鉄京都線・千里線（淡路駅付近）連続立体交差事業の進捗について

3 議題

(1) 下新庄地域第 5 回ワークショップ開催報告

(2) 第 26 回 まちづくり構想部会（12 月）の開催について

4 その他

5 閉会

《配付資料》

- ・ 議事次第、座席表
- ・ 第 2 回新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域検討協議会会議資料
- ・ 下新庄地域第 5 回ワークショップ開催報告書

1. 開会

2. 情報提供

(1) 第 2 回新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域検討協議会会議報告

- ・ 新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域検討協議会は、平成 30 年度に新大阪駅周辺地域が都市再生緊急整備地域の候補地域に指定されたことを受け設置された協議会である。
- ・ リニア中央新幹線は現在東京名古屋間を結ぶ工事を行っている。こちらは 2027 年の開業を目指して進められている。大阪までのリニア新幹線の開業は当初計画では 2045 年が予定されていた。しかし JR 東海に対する国からの支援により最大 8 年間前倒しになり最短で 2037 年に開業する見込みである。
- ・ 北陸新幹線は現在、鉄道・運輸機構が環境アセスメントの手続きを行っている。この事業は国の費用が入り整備されていく。北海道新幹線札幌駅の 2030 年開業後の 2031 年から北陸新幹線敦賀新大阪間の工事が始まり 2045 年に北陸新幹線が開業される見込みである。環境アセスメントを 4 年間行っている間に国が北陸新幹線の予算を確保する目処がついた場合は、2037 年に開業の可能性がある。
- ・ 協議会では今年度内にはまちづくり方針の骨格を定めたいと考えている。但し、具体的なまちづくりの方針はリニア中央新幹線、北陸新幹線の駅の位置がどの段階で決まるのか不透明なため、ゾーニングやインフラ計画や、まちづくり方針の作成、都市再生緊急整備地域の指定などは 2020 年度以降だと考えている。
- ・ 新大阪駅の担うべき役割として、大きく三つの役割を述べている。1 つ目は、スーパーメガリージョンの西の拠点、2 つ目は広域交通ネットワークの一大ハブ拠点、3 つ目は関西、西日本、アジアのゲートウェイである。
- ・ 先ほどの 3 つの役割を果たすために 3 つの視点がある。1 つ目は広域交通のハブ拠点、その地理的条件を生かすことが必要であると考えている。2 つ目の視点は、利用者それぞれの行動特性に応じたサービスの提供が必要であると考えている。3 つ目の視点は、デジタル化やネットワーク化が進んだ時代だからこそ、実

際に顔を合わせ、相互理解、信頼関係を深めることに価値があると考えている。

- ・さらに3つの視点を踏まえて導入すべき3つの都市機能をイメージしている。1つ目は交流促進機能、2つ目は交通結節機能、3つ目は都市空間機能である。

以上、新大阪駅周辺のまちづくり検討のスケジュールとまちづくり方針の概要について都市計画局から説明。

(質疑応答)

(部会員)

- ・交流促進機能、交通結節機能、都市空間機能についてこれから具体化されていくのか。

(都市計画局)

- ・まちづくり方針の骨格としてその3つの機能が必要だと考えているが具体化はまだ先の予定である。

(部会員)

- ・都市再生緊急整備地域検討協議会にこちらで議論をしている内容を反映して貰うことはできないのか。

(都市計画局)

- ・東淀川区長にオブザーバーとして参加していただいている。その場で地域の意見が述べられることも役割として考えている。

(部会員)

- ・バリアフリーまちづくり協議会での意見が区役所を通じて反映されるのか。

(都市計画局)

- ・反映されるかどうかは分かりかねるが伝えることはできる。

(部会員)

- ・資料の中に東淀川区からの視点を入れてもらえないか。東淀川区の文化との交わり等があればよいと思う。

(都市計画局)

- ・都市空間を形成するにあたり、大阪の成り立ちや文化、風土を踏まえて、新しさと界限性をうまく融合させたいと考えている。

(部会員)

- ・来訪者の目線で大分書かれているように感じる。地域としてそれをどう受け入れるか、どうマッチングするのか等、地元目線でも書いてもらいたい。
- ・このバリアフリーまちづくり協議会で意見交換を続けてきた。その視点を踏まえたうえで新大阪駅周辺の整備候補地域が発展することが一番望ましく、喜ばしいかたちだと思う。それぞれの議論が分断された状態でこれまでの議論が何も実を結ばないとなると、何のためにやってきたのだということになる。

(都市計画局)

- ・まちづくりが具体化する際に検討させていただく。

(部会員)

- ・第3回の検討協議会でゾーニング等は具体的になるのか。また、ゾーニングはどの程度のレベルなのか。整備地域の範囲は決定するのか。